

1 第1学年「ひきざん (1)」

2 本授業の概要

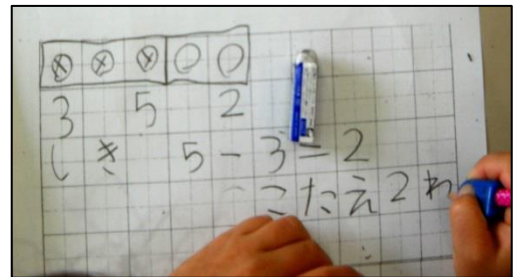
ひき算の式から具体的な場面を読むことでひき算についての理解を深めることをねらいとする授業である。これまでの学習では、絵や文章の内容についてブロックを動かして表現し、図に表し、式と答えを考えてきた。本授業は逆に絵から式に合うお話を考える学習であり、ブロックや図を用いて確かめる活動も行わせた。



「式の数値が、絵の中のどのものを意味するのか」や「なぜひき算になるのか」ということも説明させ、理解を定着させたいと考えた。

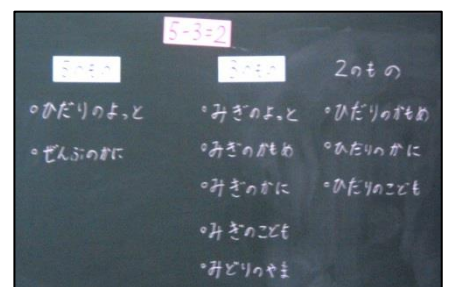
3 実践の振り返り

- (1) ワークシートの内容についてははじめに空欄を埋める形式でお話づくりを行い、その後に自由に問題づくりに取り組ませた。空欄を埋める形式では多くの児童が数値や言葉を書くことができたが、自由な問題づくりでは手が止まる児童が多かった。「できる」という実感を与え理解を定着させるために、あといくつか空欄を埋める形式を用意し、徐々に空欄を増やすなど細かい段階を踏む必要があったと考える。



- (2) 板書・掲示の工夫

お話づくりを始める前に、絵の中から式の数値である「5、3、2のもの」を児童に発表させ、黒板に板書した。文字で書いてあってもその言葉と絵の内容が一致しておらず、お話づくりに活用している児童は少なかった。子供たちが発表した「5、3、2のもの」は絵を用意し、言葉と一緒に黒板に掲示する方法がよかったと考える。また、掲示した内容を全員に絵の中から探させて、一つ一つの絵の内容をしっかりと押さえることも必要であったと考える。



4 指導講評 講師：笠井 健一先生

- ・児童からでた発言は、全員で教科書の中から探させたり、復唱させたりし共有することで一人一人の理解が深まる。
- ・本授業に至るまでの段階で、場面や絵を言葉で表現する活動を多く取り入れお話を作り、文字で書くという活動につなげることができた。
- ・個に対応しながらも常に全体を見取り、「できた」という実感が得られる授業を展開することが重要である。